

第34回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成27年1月15日（木） 13：00－14：30
2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員
 - (2) 政府側
松本内閣府大臣政務官、阪本内閣府審議官、小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官
4. 議事要旨

冒頭、松本内閣府大臣政務官から以下のような挨拶があった。

松本内閣府大臣政務官：

- ・今回の宇宙基本計画は、安倍総理からも「今後の宇宙政策の基本方針として歴史的転換点となるもの」と高い評価をいただいた。
- ・今回の計画は、具体的な衛星の機数・整備年次まで明確に書き込まれた画期的なものとなっている。
- ・短期間で充実した計画とできたのも委員の皆様の精力的な審議の賜物であり、感謝申し上げる。
- ・今後は、計画を着実に実行していくため、工程表を改訂して施策を具体化していかなければならない。
- ・この観点から本日ご審議いただく工程表改訂の進め方や委員会の検討体制は極めて重要。精力的なご審議をお願いしたい。

(1) 新たな宇宙基本計画の決定について（報告）

9月12日に開催された宇宙開発戦略本部会合（第9回）及び決定された新たな宇宙基本計画について、資料1－1、1－2、1－3に基づき、事務局から報告を行った。

(2) 今後の宇宙政策委員会の進め方について

今後の宇宙政策委員会における工程表のローリングの進め方と今後の宇宙政策委員会の検討体制について、事務局より説明があり、その後、これについて審議を行った。また、平成26年度補正及び平成27年度の宇宙関係予算案について、事務局より報告を行った。審議の結果、資料2－1の「宇宙政策委員会における工程表のローリングの進め方について（案）」及び資料2－2の「今後の宇宙政策委員会の検討体制について（案）」については、委員会として了承された。

また、新たに設置される部会及び小委員会に属する委員については、委員長が検討の上で指名することとなった。委員の構成の決定をもって、部会及び小委員会の正式な設置となるので、後日宇宙政策委員会で報告することとなった。

主な意見は以下の通り。

- ・当該年度の予算が執行されて成果が出るタイミングと次年度に向けた検討を行うタイミングにどうしてもずれが生じるが、宇宙は数年にわたるプロジェクトが多いことにも留意し、検討の仕方を工夫する必要がある。

- ・各プロジェクトに対し、各省がいかなるアウトカムを設定し、その達成に向けいかなるアウトプットを設定するのかについても宇宙政策委員会として審議していくべき。
- ・これまでの宇宙開発利用では、アウトプットとアウトカムのつながりが希薄であったので、アウトカムを明確化し共有することは重要である。アウトプットを達成すればアウトカムにつながるよう、フィードバックの仕組みが必要。そのための調査分析機能の強化が必要。
- ・科学技術のアウトカムをどう考えるのか、安保、産業と時間軸の差があると思われるので、それも踏まえて検討が必要。
- ・宇宙の技術サイクルは加速しており、5年程度で新技術が出てきている。衛星開発期間が5年では長すぎるので、これを縮めていく取組が必要。
- ・様々な事情によりプロジェクトが遅延することは、宇宙の世界では過去見られたこと。計画に明示された年限を大幅に逸脱しないよう、戦略的予算配分方針も活用し、必要な取組を行っていく必要がある。
- ・各プロジェクトをどの部会で審議するのかは、宇宙基本計画に記載された考え方をベースに設定するが、複数の部会に関連が深いプロジェクトがあれば個別に調整していく。
- ・部会は三つの目標に基づき総合的に検討を行い、小委員会では課題を限定して専門的検討を行う場とする。
- ・「宇宙システム海外展開タスクフォース（仮称）」は、宇宙政策委員会とは全く別の組織として立ち上げることを考えているが、詳細は今後固めていく。

以上